

# 伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



ぶつ だん  
仏 壇  
いい おか とき さぶ ろう  
飯 岡 時 三 郎

(平成6年度作品)  
16mm映画・ビデオ  
カラー・18分

## プロフィール

住所、荒川区町屋5-1-16

大正12年(1923)、東京都荒川区生まれ。

平成5年度荒川区指定無形文化財保持者に認定される。

13歳の頃から父親について修業し、技術を修得。戦後独立。

長い間、東京唐木仏壇工業協同組合の組合長を勤めている。

「仏壇を伝統的な手法でつくる技術は、大変根気がいり、修得するに長い年月がかかる。そのためか、近年、職人の数がめっきり減っている」、時三郎さんは伝統の灯を絶やさないよう、後継者の台頭を待ち望みつつ、江戸指物の伝統を守り、仏壇づくり一筋に励んでいる。

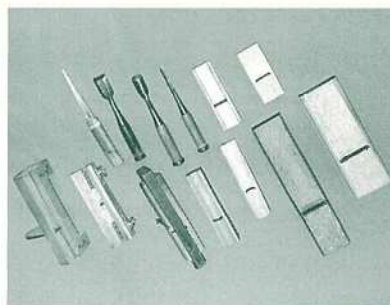
企画 東京都荒川区教育委員会・製作 毎日映画社

## 用具・工具

素材(黒檀・柴檀・屋久杉・桐・桑)、鋸、ノミ、カンナ類、ニカワ、ウルシ、サンドペーパー、サナダヒモ、小刀、など。

## 工程 —— 桑材の仏壇の場合 ——

- (1) 3年以上乾燥させた木材(三宅島産の桑材)を使って木取りをする。
- (2) 寸法ごとに板を切断し、必要な厚みに削り、貼り合わせ、サナダヒモで固定する。
- (3) 「留切」は、台輪・引出などを組み立てるため、留部を45度に切る。
- (4) 戸の縁と台輪の四隅をニカワで留め付ける。
- (5) 引出づくり(縁をカンナで削り、サンドペーパーをかけ、ニカワを塗る)
- (6) 屋根の部分を切り抜き、小刀で屋根前の太鼓下を削る。
- (7) 台輪・支輪と胴板を組み合わせるため、「ほぞ取り」、「穴ほり」を行ってから面をとる。
- (8) 木地工程の最後に組立を行う。台・帆立、天上、ゾウキン吊り、障子、引出、大戸などを組み立てる。奥柱、障子を立てる。
- (9) 「彫刻」は、荒川区登録無形文化財保持者の酒場敬さんが担当。
- (10) 木地工程が済んだ仏壇は、「塗し屋」に出され、そこで着色や下塗り、中塗り、上塗り、タンポ仕上げを施された後、再び、手もとに戻ってくる。
- (11) 部材を取揃え、紗を張り、天上板、裏板などを取り付け、欄間をはめ込み、蝶番を付け、大戸を取り付ける。
- (12) 最後にウルシを丹念に塗って仕上げる。



利用される方は ..... ☎ **3891-4349**

この記録〈16ミリ映画〉、〈ビデオテープ〉は、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。

※16ミリ映画は、団体登録と16ミリ映写機講習修了者が操作することが必要です。